子宮頸がん予防ワクチンの接種を希望される人へ

～予防接種に欠かせない情報です。必ずお読みください。～

★子宮頸がん予防ワクチンは2種類あります。特徴が異なりますので詳しくは接種医にご相談ください。

※HPVとはヒトパピローマウイルスのことです。

商品名		サーバリックス	ガーダシル
特徴		子宮頸がんの原因となる、発がん性HPV16型、18型の感染を防ぐワクチンです。	子宮頸がんおよび外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの原因となる、発がん性HPV6型、11型、16型、18型の感染を防ぐワクチンです。
接種回数		3回	3回
接種間隔		初回　2回目　3回目 1か月後 6か月後	初回　2回目　3回目 2か月後 6か月後
		※ただし、3回の接種の途中で妊娠した場合は接種の継続はできません。	
接種方法		腕に0.5ml/回を注射	腕に0.5ml/回を注射
副反応	10%以上	かゆみ、注射部分の痛み・赤み・はれ、胃腸症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛）、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労	注射部分の痛み・赤み・はれ
	1～10%未満	発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染	発熱、注射部分のかゆみ、出血、不快感、頭痛
	1%未満	注射部分のピリピリ感、ムズムズ感	注射部分のしこり、手足の痛み、筋肉が硬くなる、下痢、腹痛、白血球数増加
	頻度不明	気を失う 、息苦しさ、息切れ、動悸など	無力症（上まぶたの下垂、物が重なって見えるなど）、寒気、疲れ、だるさ、血腫、気を失う、体がふらつくめまい、関節の痛み、筋肉痛、おう吐、悪心、リンパ節 のはれ・痛み、皮ふ局所の痛みと熱を ともなった赤いはれ
	○まれに、過敏症反応（アナフィラキシー反応、じんましん、呼吸困難、血管のむくみなど）があらわれることがあります。 ○またガーダシルでは、まれにギラン・バレー症候群（下から上に向かう両足のまひ）、血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など）、急性散在性脳脊髄炎（まひ、知覚障害、運動障害など）があらわれることがあります。 ※このような症状が疑われた場合は、すぐに主治医にご相談ください。		

現在、子宮頸がん予防ワクチンの接種を積極的に奨めていません。

接種にあたっては有効性とリスクを理解したうえで受けてください。

ワクチンを接種したあとも、20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受診 してください。